

NATO——戦争犯罪人の私的クラブ

【訳者注】このタイトルがすべてを物語る。NATO とは、あたかも自分たちが社会全体から要望されて存在するかのように見せかける、私的な〇〇組暴力団のようなものである。ただ、彼らは“国際社会の意思”だと主張している。そもそも NATO（北大西洋条約機構）は、ワルシャワ条約機構に対抗して、共産主義の拡大を防ぐための民主・自由主義陣営の結束としてできたものだから、共産主義の脅威がなくなれば、無用のものとして解散すべきものである。

それを逆に、ロシアがソビエト帝国を再建しようとしていると、デマ宣伝をして逆に NATO を強化しようとするのは、もともとそれが何であったかを物語る。それは、ロシア（ソ連）を「悪の帝国」と呼んだ本人が、実は「悪の帝国」の本家だったということである。それは「テロとの戦い」を呼び掛けるアメリカが、最大のテロリストであり、世界の脅威であることが判明したのと、同じ暴露の経緯をたどった。

アメリカの背後にあってアメリカを動かしている「イルミナティ」という陰謀団が、最初から共産主義のアジェンダをもち、マルクスに依頼して『共産党宣言』を書かせた、共産主義の生みの親だということが判明した現在、イルミナティと共産主義者は同じものであり、アメリカは、神の創った世界を憎悪する、共産主義国家としての正体を現したということである。これは受け入れたくない、仰天の事実かもしれないが、確実に急速に受け入れられていくだろう。これはしかし、歴史を大きく転換させるための、悪を演ずるアメリカの役割として捉えなければならない。

Adeyinka Makinde

Global Research, October 15, 2016



現在、何が起きているのだろうか？ それは NATO が、アメリカ政府が犯した諸々の政策上の犯罪を隠すカバーの役目をしているということ、別の言い方をすると、アメリカ政府が、現実的に NATO の侵略であるものに、絶対的な合法性を与えているということである。

それに加え、心得ておくべき、かつ注目すべきことは、西ヨーロッパには、シャルル・ドゴ

ールのような独立心をもった指導者が、もはや、いないということである。

ワシントンという場合、それはアメリカといっても NATO といってもよく、互換的に使ってよいと思われるが、それは NATO がアメリカに支配されているからである。それは一つの指令構造であって、究極的に、アメリカの軍事力とアメリカの軍事的優越性に基づいている。アメリカ以外のすべての者が実質的にその従僕である。あるいは従僕という言葉がきつすぎるなら、彼らはアメリカの行動に従う下士官だと言えよかろう。

<https://youtu.be/We4-kbjBNiA>

アメリカは NATO を利用し、また EU（欧州連合）を、こうした計画を実現させる手段として使ってきた。計画というのは、リビアのカダフィを排除すること、またシリアのアサドを排除する試みのことである。これらは実は不法行為である。ロシアと中国がリビアに関して国連の席についたとき、彼らは騙されていた。現在、現実的にそれが何であったかがわかってきた。

それは最初から、カダフィを転覆させるための欺瞞的行動であった。こうした場合、彼らは、ヨーロッパの指導者たちの満腔の支持を受けた。その戦争行動の間、イタリアの基地を使ってリビアの爆撃が行われ、英特殊部隊がこれらイスラム主義反乱兵の訓練に参加し、彼らは最終的にカダフィを倒すのに成功した。フランスの空軍機も、リビアの爆撃と、ムアンマル・カダフィを現実的に追跡し、リンチにかけることに大きな役目を果たした。

これらは現実的に戦争犯罪である。外国の指導者に対して戦争を仕掛け、暗殺することについて、両義的な解釈はありえない。したがって、ヨーロッパのリーダーたちに根性がなかったことは、彼らの利益に反して動くことをアメリカに強制されたという意味で、特に悔やまれることだった。キエフのクーデタの場合もそうだった。これはアメリカの情報部が仕組んだもので、ビクトル・ヤヌコビッチの合法的な政府を、不法に転覆させたものだ。この場合にも EU が共犯者となった。このとき、彼らはロシアに対して制裁を行うように強制されたが、それは彼らの経済的な利益に反するものだった。

だから私は、NATO と EU は、イギリスが EU から離脱することを望んでいないという解釈に与する。彼らは Brexit を十分な証拠だとして、アメリカと NATO から見れば不法な行動であるものを、合法的だと認めている。